

②【学校評価の中間結果について】

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をありがとうございます。夏休み前の学校評価についてのアンケートへのご協力もありがとうございます。同時期に児童と教職員にもアンケートを実施しました。全教職員で結果を分析し、教育活動を振り返り、今後更なる改善に向けて取り組むための今後の方針を固めましたのでお知らせします。

どの項目も、評価データは、教職員・児童・保護者アンケート、及び児童が実際に行った検証問題や体力テストなどの結果をもとに、次のような基準で評価しました。

A：平均値3.5以上（十分達成している）
 B：平均値3.0以上（概ね達成している）
 C：平均値2.5以上（十分でない）
 D：平均値2.5未満（不十分）

	【アンケートの対象】 具体的なゴールの姿	評価	◇結果の分析 ⇒ 今後に向けて
安全安心な学校	<p>【教師】避難訓練について、事前・事後指導もあわせて確実に行うことができた。</p> <p>【児童】避難訓練を通して、災害が起こった時に、自分の身を守る方法が分かった。</p>	A	<p>◇避難訓練の様子からも、安全行動が身につけている様子が見られる。</p> <p>⇒「心の安心」も念頭に置きながら、避難訓練時の放送や指導に関しての配慮を継続していく。</p>
学力の定着と向上	<p>【教師】学習活動の中で学校研究の重点「自ら考え、学び合う子」―自己決定の場の工夫を通して―を意識した実践を行った。</p> <p>【児童】毎日の授業で、自分で決めて学ぶことができた。</p>	B	<p>板書のプレート（きめるちゃん）を活用して意識的に自己決定の場を設定したり、職員同士で授業を見合ったりすることで、児童も教師も児童に委ねる場面の設定について意識の高まりが見られた。</p> <p>⇒児童がよりゴールに向かって目的意識をもって授業に臨むことができるように、単元シートを活用して、単元を意識した自己決定の場を設定したり、単元デザインを児童と共にしたりする。</p> <p>⑥毎日(まいにち)の授業(じゅぎょう)で、自分(じぶん)でできて、学ぶ(まなぶ)ことができた。 児童アンケート</p>
	<p>【教師】授業において、生徒指導の4つの視点をいかした授業ができた。</p> <p>【児童】タブレットを使って、自分の考えを伝えたり、調べたりすることができた。</p>	A	<p>◇授業において、生徒指導の4つの視点をいかした授業をすることができた。</p> <p>⇒2学期も同様にLearn walkを行い、生徒指導の4つの視点をいかした授業をお互いに見合い、授業づくりをしていく。</p>
	<p>【教師】子どもが自ら選んだり、決めたりする学習の中で、ICTを有効に活用できた。</p>	B	<p>授業の中で、タブレットを使って児童が自己決定を行う場面を多く取り入れることができた。</p> <p>⇒2学期も同様に自己決定の場でタブレットを使う場面を多く取り入れていく。</p> <p>⑦子どもが自ら選んだり、決めたりする学習の中で、ICTを有効に活用できた。 教職員アンケート</p>
豊かな人間性の育成	<p>【教師】児童を認めてほめることや励ます場を意図的に多く設定した。</p> <p>【児童】①学校でほめられる。②友だちの良いところを見つけ、「はぎのっ子キラリさん」を書いている。</p>	B	<p>年間を通じて、キラリさんカードの取り組みを行っていく。1学期と同様に、直接手渡しで行うことで、自分や友達の良さに気づけるようになる。また、行事や委員会でのめあてをもたせ、ふり返りを行っていく。学期末には、カードをファイルにして保護者に返却することで、自分のよさに気づき、励ます場を設定していく。また、児童が認めてほしい場と教師が認めたり褒めたりする場が一致するように日頃から一人一人のがんばりや取組を教職員全員で情報共有していく。</p> <p>①学校でほめられる。(児童アンケート)</p> <p>②友だちの良いところを見つけ、「はぎのっ子キラリさん」を書いている。(児童アンケート)</p>
	<p>【教師】学校教育活動の全体を通して自己決定の場を設定した。</p> <p>【児童】①よりよい自分になるために目標を立ててがんばることができた。②自分で決めたことを最後までやり通すことができた。</p>	B	<p>授業者が意識して、児童が自己決定する場を設定することができた。しかし、よりよい自分になるために目標を立てることはできて、がんばることに課題が見られる。</p> <p>⇒日々の授業、運動会、マラソン大会、委員会、クラブなどの様々な学校行事で児童が主体的に活躍する場を多く設定し、児童が自己決定する姿の向上を図りたい。</p> <p>⑧自分(じぶん)で決(き)めたことを最後まで(さいご)までやり通(とお)すことができた。 児童アンケート</p>
健康増進と体力の向上	<p>【体力テストの結果】児童の「柔軟性」「走力」が高まった。</p>	A	<p>柔軟の仕方を掲示したり、体育前の「萩野台ストレッチ」を行うことで児童の柔軟性の向上が見られた。</p> <p>⇒「スポチャレ40m」等を準備運動で行うことで走力の向上につなげていきたい。</p>
	<p>【教師】給食時間や学級活動等を活用し、日常的に食育指導ができた。</p> <p>【児童】苦手なものが頑張らずに少しでも食べた。</p>	A	<p>給食中の様子や残量調査の結果から苦手なものもがんばって食べている様子が見られる。</p> <p>⇒授業時間や給食時間にICTを活用しながら食育指導を行い、食に対する関心をさらに高めていきたい。</p>
家庭と地域の連携	<p>【教師】学校HP等を通して教育活動を家庭や地域に発信した。</p> <p>【保護者】学校は、学校での子どもの様子や学校の教育活動について、学校HPやおたより、電話連絡等で家庭に伝えている。</p>	A	<p>学校ホームページの更新を毎日行うことができた。また、学年だよりや学校だよりで、児童の活動の様子がわかるような写真も掲載することができた。</p> <p>⇒毎日のホームページ更新、必要に応じたテロルの学年便りの配信を2学期以降も行う。PTAの役員会レジメや、草刈りやあいさつ運動の出欠確認やアンケート等もテロル配信で行うことで、保護者への呼びかけをよりスムーズにしている。</p>
	<p>【教師】保護者を巻き込んだメディアに関する指導ができた。</p> <p>【児童】家庭でのメディアに関するルールを決め、守ることができた。</p> <p>【保護者】家庭でのメディアに関するルールを決め、家族で守ることができた。</p>	B	<p>児童は守ることができると感じているが、保護者は守ることができていないと感じている家庭もあり、児童と保護者での認識の違いがアンケート結果から見られた。⇒メディアをテーマにした学校保健委員会(すこやか集金)を企画・実施し、保護者とともにメディアの上手な付き合い方について考える機会を設定する。また、集金の後にもメディアコントロールチェック表でのチェックを行い、メディアコントロールを継続していく。</p> <p>⑨家庭(かてい)で、メディアに関(かん)するルールを決(き)め、守(まも)ることができた。 児童アンケート</p> <p>⑩家庭でのメディアに関するルールを決め、家族で守ることができた。 保護者アンケート</p>
活動組織ある学	<p>【教師】超過勤務時間の平均値が45時間未満になった。</p>	A	<p>時間外勤務時間の平均(昨年度比)4月39h,5月37h,6月35h 1学期は毎月40hを下回った。</p> <p>⇒平均すると40hを下回っているが、職員一人一人を見ると、45hを超える職員が固定化している。校務分掌や学校行事に関わる業務を再度見直し、行事の計画・準備などを役割分担を明確にし、計画的に行う。</p>